

第 32 回 2050 年の日本は？（その 4）

—中・長期的ビジョンを！—

（2025 年 4 月 11 日）

今回は「中・長期的ビジョンを！」と題してお話ししたいと思います。日本が直面している様々な問題について、その場しのぎの対策ではなく、政府は時代に合った「中・長期的ビジョン」をもって対処をしてもらいたいと思います。「高校授業料の無償化（無償化とありますが、すべてが無料になるわけではありません）」も一つの例であります。ここでは、「コメ不足とコメ価格の高騰」を取りあげます。昨年夏、スーパーの棚からコメがなくなり、「令和のコメ騒動」が起きました。この時の農林水産大臣の「新米が出てくれば、コメの値段は落ちつく」という発言に、私は違和感を覚えました。なぜ、この時に備蓄米を放出しなかったのかと疑問に思ったからです。考えが甘いなとも感じました。備蓄米の放出は今年の 3 月になってからです。これでは遅すぎです。



大臣の発言にもかかわらず、その後もコメの値段は下がらずに上昇を続けました。農林水産省によれば、今年（2025 年）の 3 月 10 日～16 日に日本全国のスーパーで販売されたコメ 5 キロの平均価格は、1 年前のコメの値段と比べて 2 倍となり 4172 円で過去最高、11 週連続の値上がりとなりました。日本人にとって主食であるコメの値段が一年間で 2 倍になるということは異常事態だと思います。政府は異常事態とは思っていないのでしょうか。多くの家庭がスーパーを 3 か所、4 か所と歩きまわり、安いコメ（コメだけではありませんが）を買い求めております。我が家でもそうです。夕食を麺類で済ませたこともあります。備蓄米がスーパーの棚に本格的にならぶのは 4 月に入ってからのようですが、学校・病院等への供給が優先されるようです。皆さんの自宅近くのスーパーなどでは現在（3 月 30 日）はいかかですか。ただ、備蓄

米の放出量が少なく、これでは国民が満足するような価格にはならないと、私は思っております。数百円ぐらい下がってもあまり意味がありません。コメの価格が1年間で2倍に上昇したわけですので、3000円ぐらいにならないと話になりません(備蓄米には令和5年産の古米も含まれているはずです)。コメの価格が落ち着くように、もっと大量に備蓄米を放出する必要があると思います。農林水産省のホームページによれば、現在は100万トン(10年に一度の不作にも供給できる量)を備蓄しているそうです。備蓄米が大幅に減少するようなことがあれば、外国から外米(アメリカは、日本はアメリカ産のコメに700%の関税をかけていると発言し、今話題になっていますね)を輸入し、それを備蓄米とすればよいのです。政府には何のための備蓄米かを考えてもらいたいです。どうも政府と国民の考えが乖離しているように、私には思えます。

政府は大臣の発言からも明らかのように、「コメが不足しているとは認識しておらず、業者などが投機的(金儲け)な目的でコメを売らずに流通過程で滞っている」ものと考えているようです。それでは、何故その対策を迅速に取らなかったのでしょうか。理解に苦しみます。また、今後1年以内に放出した量と同量のコメを買い戻すとも発言しております。これは、流通量が増えすぎるとコメの値段が「暴落」することを恐れているためです。コメの価格が一年間で2倍に上昇し、国民が苦しんでいるコメ値段の「暴騰」はあまり問題にしないのでしょうか。更に、主食であるコメの輸出も増やしています。輸出米を生産している農家には補助金を出しております。これは、日本の優れた農水産物の海外への輸出を促進させる政策の一環だと思いますが、コメは主食ですので、まずは国内の供給を優先してコメ不足が起きないようにすることが先決です。主食ではないリンゴやブドウやホタテなどの農水産物の輸出とは根本的に違います。アメリカは4月3日(日本時間)に日本に24%の関税(車は25%の追加関税)を課すことを発表しました。当然、コメの輸出にも適用されます。輸出向けのコメを生産している農家やコメの輸出を扱っている商社は困惑しているようです。農林水産省(令和7年3月)によれば、海外におけるに日本食レストランやおにぎり店などが増加した結果、近年コメの輸出は大幅に増加し、2024年の輸出額は120億円(前年比+28%増)、輸出数量は4万5112トン(前年比+21%)となり、直近5年間で約2.6倍に増加いたしました。今日(4月7日)、コメの状況を調べに自宅近くのスーパーに行ってきました。コメ売り場の棚の一部に米が全くなく異様な感じでしたので、近くにいた店員に聞いたところ、「コメが入ってこない」(コメとは備蓄米ではないかと思いますが)と言っていました。5キロ4000円以上のブランド米は買い手がなく、棚一杯にならんでおりました。台湾米が5キロ2300円ぐらいで販売されておりましたが、カリフォルニア米はありませんでした。農林水産省によれば(4月7日)、3月24日から30日

に全国のスーパーで販売されたコメ 5 キロの平均価格は、備蓄米の放出にもかかわらず、1年前と比べて2倍超の4206円、これは過去最高値で13週連続の値上がりとなりました。

農業経済学の専門家は「政府は生産量を減らしすぎたことが（コメ不足の）原因と認めて抜本的な対応を取らないと問題は改善しない」（東京新聞）と発言しております（括弧内は筆者）。コメがありませんと宣言して店を閉じた米屋もあります。田植えが始まっていないのに、もう令和7年産のコメの買い付け競争が激化しています。投機（金儲け）の目的でコメを買い付けようとしている業者や、直接農家と接触しコメを獲得しようとしている業者もいるようです。これでは、恐らく今年もスーパー店頭での「コメ不足」と「コメ価格の高騰」が続くのではないかと危惧しております。いずれにしても、「コメ不足」なのか「コメが流通過程に滞っている」なのかは、近いうちに、その事実が明らかになることでしょう。注目してきたいと思います。

コメの流通過程も現在は、生産者（農家）⇒JA全農⇒卸売業者⇒小売業者（スーパー・米屋など）・外食⇒消費者となっておりますが、上述したように、最近ではスーパー・米屋・外食・個人が直接農家から購入していることも増えてきております。農家も減少して高齢化しているようですので、農家がある程度満足のいく収入を得られるように流通過程を改善することも必要ではないでしょうか。今、『トランプ関税』が大きな問題となっておりますが、この複雑な日本独特の流通過程は外国からは非関税障壁ともみられます。改善の余地がありそうです。

インバウンドの外国人観光客数が記録的な増加で、政府観光局（JNTO）によれば、今年2月の外国人観光客数は325万8,100人で、前年同月比（1年前と比べてという意味）では16.9%増となりました。2月として過去最高であった昨年の278万8,224人を大きく上回り2月の過去最高を記録し、また2月として初めて300万人を突破いたしました。これは、旧正月（春節）休暇が2月初旬まで続き、旅行需要の高まりがみられたほか、1月に引き続きスキー需要が高まる時期であるため、オーストラリアとアメリカを中心に観光客数が増加したようです。外国人観光客は「寿司はうまい！とんかつ、カツ丼、天丼、鰻丼、海鮮丼、カツカレー、おにぎりも安くておいしい、最高だ！」と言って日本食を爆食しておりますので、コメの需要も増加いたしますね。また、コロナ禍から解放されて、家族や、友達や、会社仲間と食事に出かけた人も増えたのではないのでしょうか。皆さんは、いかがでしたか。これもコメの消費が増えた原因の一つになりますね。更に、

日本政府はインバウンドの外国人観光客を将来年間で 6000 万人まで増加させたい意向で、インバウンド産業を日本の一大産業にしたいようです。そうすれば、コメの需要もさらに増加いたします。

一方、このままいけば日本の人口は減少することは確実ですから、当然コメの生産も減少させる必要があります。また、何らかの大災害や感染症の発生で、インバウンドの外国人観光客が急減することもあります。更に、地球温暖化の影響で、日本の夏が異常に暑くなり、コメの生産に影響を与え、コメ不足になることもあります。また、大雨、台風などが大型化し被害も大きく、同様にコメ不足になることも事実だと思います。また、日本の人口は減少していきますが、一方で世界の人口は増え続け、国連によると、**2050** 年の世界の人口は **97** 億人になると予測されています。これは **2024** 年の **82** 億人（国連推計）から **15** 億人の増加となります。食料不足が深刻な問題となって、食料獲得競争も激化するのではないのでしょうか。こういうことも考えておかなければなりません。

今までお話してきた内容をよく鑑み、政府は詳細なデータを基に、正確な「中・長期的ビジョン」をたてていただきたいと思います。勿論、政府はビジョンを持っていると思いますが、それが間違っていたり、時代に合わなくなったりしたら直さなければなりませんね。正確なビジョンを持っていれば、今回のような「令和のコメ騒動」がこんなに長く続くことはない、個人的には思います。今日（4月9日）突然、農林水産大臣が「7月まで毎月備蓄米の放出をおこなう」と発言いたしました。これは、備蓄米を放出してもコメの値段が上昇し、政府は慌てて更なる放出を決めたように、私は思いました。1頁で述べたように「その場しのぎ」の対策で、明確なビジョンを持っていないのだと痛感いたしました。先ずコメの値段を下げてから、コメの適正価格などについて議論をしてもらいたいと思います。「コメ不足とコメ価格の高騰」が起きた時に、迅速に対処できるように、コメについての「中・長期的ビジョン」を時代に合うように見なおしたらいかがでしょうか。今回は「コメ不足とコメ価格の高騰」を例にあげ、「教養講座」のタイトルを、明るい日本社会を作るために、時代に合った「中・長期的ビジョンを！」といたしました。皆さんの投稿を期待しております！

（次回は6月初旬を予定しております）